

【MACF 礼拝説教要旨】

2023 年 10 月 8 日

ルカによる福音書 22 章

「御心のままに」

39 イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。

40 いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言われた。

41 そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。

42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

[43 すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。

44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。] 45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。

46 イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。」

1)いつものようにオリーブ山で

イエス様は「いつものように」祈りの場に向かいました。

「祈りの場」を持つことはイエス様にとってとても意味深いことでした。

これから人生最大の試練に向かう前に、イエス様は「いつものように」祈りの場に向かいました。そこには平安がころころにあふれているように思えます。

そして、イエス様は弟子たちに対しても、祈るべきことを語りました。

「誘惑に陥らないように」とイエス様は 2 度語っています。

「絶望に陥ることがないように」と理解することができると思います。

絶望に陥り、自暴自棄になり、神様に背を向ける方向に行かないように弟子たちには祈ることがとても重要な事柄でした。

それは、間違いなく私たちにも重要です。

2) 父よ、御心なら

イエス様の有名な祈りの言葉です。

42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

イエス様にとって、最大の試練が待っています。それは最大の苦しみをもたらす出来事でした。全

くの無罪であるにもかかわらず十字架にかけられる、という出来事も、全人類の罪と

苦悩を担い、神様への「あがないの代価」として裁きを受けることの苦難は、正直なところ

「この杯をわたしから取り除けてください」という思いを誠実に父なる神様に訴えています。

しかし、それを言葉に出したのち、はっきりと

「しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」と伝えています。

そして、これこそがイエス様の父なる神様への「信頼」であり「信仰」です。

父なる神様の「配慮」「采配」こそ「最高、最善」なのだと信じているのです。

マタイによる福音書 26 章には同じ内容が書かれていますが、もう少し詳細に触れています。

ゲツセマネで祈る

36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行っている間に、ここに座っていなさい」と言われた。

37 ペトロおよびゼベダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。38 そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」

39 少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」

40 それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。「あなたがたはこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。

41 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」

3) 弟子たちへの懇願

イエス様はこの苦難の中で弟子たちに「イエス様と一緒に目を覚ましてほしい」つまり「祈ってほしい」と願っているのです。

しかし、弟子たちはイエス様の願いもむなしく「眠りこけてしまう」失態を演じました。

なんと3度も。

前回のメッセージで語ったペトロの裏切りだけでなく、眠りこけてしまう弟子たちの姿は、なんとも心もとない存在だと感じます。

十分に内容を理解できないまま、悲しみを心に深く感じ、頑張ろうと思っても

眠り込んでしまう弱さを誰もが持っています。

厳しい言葉ですが、イエス様の弟子たちでさえ、イエス様の苦しみに関して言えば「人ごと」なのです。

誰かのために「祈る」ということが他人事や義務感や思いつきでなく、なされることこそ、イエス様の弟子たちに対する大きな期待です。

4) 最大の決断

しかしなんと言ってもこのイエス様の祈りの中核は

42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

という部分です。

全ての出来事を神様が計画し、神様が用い、神様が決済しようとされていることを信頼し、そこに自分を委ねる姿勢です。

十字架への決断はイエス様の決意というだけでなく、神様ご自身の決意でもあります。
そしてイエス様はそれを確信して、前に進み、その十字架への覚悟を決めたのです。

この決断と実行への道がわたしのため、と理解できた時、その喜びは心に大きく
湧き上がってきて、何者にも変え難い「めぐみ」の出来事として留まります。
あなたのため、わたしのための十字架の痛みと苦難、が人ごとになりませんように。

* * *

MACF 礼拝映像はこちらです。

https://youtu.be/aJUjKty_l4Q